

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	スペースゆう（多機能型 放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	令和 8 年 1 月 1 日		～ 令和 8 年 2 月 28 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	令和 8 年 1 月 1 日		～ 令和 8 年 2 月 28 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8 年 3 月 15 日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども一人ひとりのらしさを生かす 「その気スイッチ支援」	子どもの特性や発達段階を踏まえ、SST（ソーシャルスキルトレーニング）の視点を日常活動の中に取り入れている。個別活動と集団活動を組み合わせながら、子どもが「やってみたい」と思える場面をつくり、そのらしさを生かした関わりを大切にしている。	スタッフ間で子どもの様子や関わり方を共有し、支援の振り返りを行うことで関わりの方の向上を図っている。今後も研修や事例共有を通してSSTの理解を深め、より子どもの主体性を引き出す支援を充実させていく。
2	縦から横からの子ども・家族育て視点 「チームで育てるスタッフ連携」	日々のミーティングや記録共有を通して、子どもや家庭の状況についてスタッフ間で情報共有を行っている。担当の有無に関わらず、複数の視点から子どもと家庭を支えることを意識し、チームでの支援体制を大切にしている。	研修を通してスタッフの専門性を高め、子どもや家族の姿を思い浮かべながら支援について話し合う機会を大切にしている。今後もチーム支援の意識をさらに高めながら、子どもと家庭を多面的に支えられる体制づくりを進めていく。

3	<p>生活全体を支える間接的療育 「家族支援と関係機関連携」</p>	<p>保護者との日常的なやり取りを大切にしながら、必要に応じて学校や関係機関と情報共有を行っている。子どもの生活全体を見据え、家庭・学校・事業所が同じ方向で支援できるよう連携を図っている。</p>	<p>関係機関との会議や情報交換を積極的に行い、子どもにとって一貫した支援につながるよう取り組んでいく。今後も家庭や地域とのつながりを大切にしながら、支援ネットワークの充実を図っていく。</p>
---	--	--	---

	<p>事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること</p>	<p>事業所として考えている課題の要因等</p>	<p>改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等</p>
1	<p>保護者・スタッフとの交流機会 「ゆう&あいの交流イベント」</p>	<p>以前はBBQや運動会、クリスマス会など、保護者やスタッフが交流できるイベントを実施していたが、新型コロナウイルスの流行で密なイベントができなくなってしまったため、近年は実施できていない。</p>	<p>施設周辺への配慮も踏まえながら、少年の家など地域施設を活用した家族参加型イベントを検討し、保護者・子ども・スタッフが交流できる機会を次年度以降少しずつ再開していく予定。</p>
2	<p>ペアレント・トレーニングの場 「ひつじの会がなくなったこと」</p>	<p>以前は保護者会「ひつじの会」を通して、コント形式などを取り入れながら「こんなときどうする」をテーマに、保護者とスタッフが一緒に子育てや対応を考える学びの場を設けていたが、新型コロナウイルスの流行で密なイベントができなくなってしまった。</p>	<p>保護者同士の学びや交流の場の必要性を踏まえ、保護者参加型の学習会や情報交換の機会など、参加しやすい形での再開を検討していく。また親の会にスタッフが参加することなども交流の場づくりとして重要。</p>
3	<p>学童や地域行事などの参加 「地域の子どもたち同士の交流の場」</p>	<p>公園活動に訪れた際に地域の子どもたちと一緒に活動することはあるが、地域施設や学童との交流機会は限定的であり、地域の子どもたちとの関わりを広げる機会が十分とは言えない。</p>	<p>地域行事への参加や外出活動などを通して、地域の子どもたちとの交流の機会を少しずつ増やし、社会参加や地域とのつながりを広げていく。</p>